日本福祉大学　第24号
松本オフィス通信

発行日：2021年3月22日

No.1　学生奮戦記
No.2　健康科学部福祉工学科の紹介
　　社会福祉学部認知症啓発PJ
　　絵本『そばにいるよ』完成
No.4　NIPPUKU NEWS

学生奮戦記

依然としてコロナ禍での厳しい状況が続く今、そのような中でも学生たちは今しかできないことを見つけ出し、努力を続けています。今回は部活動、新生活でコロナ禍を経験した学生たちの活動をご紹介します！

コロナ禍での活動で得たもの

スポーツ科学部 スポーツ科学科 ３年
手塚　樹 さん（松本蟻ケ崎高校出身）

準硬式野球部での挑戦や得たもの

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、全国大会につながる地区大会や春季リーグ戦などの公式戦が続々と中止になりました。また、チームでの全体練習も無くなり、先の見えない日々に耐えられず、春先は野球に対するモチベーションが低下した時期がありました。

しかしある時「自分は現状を嘆いているだけで、先のことを何も考えていないのではないか」と感じました。それは、同学部や同部活の仲間が様々なことに挑戦している姿をSNSなどで見たからです。どんな状況下でも自分の目指す未来に向かって活動するみんなの姿がとても逞しく見えたと同時に、どんなに野球で怪我を負いながらも、その度に諦めず、懸命にリハビリを重ねて復帰してきた自分自身の姿を思い出しました。

「自分から可能性を捨ててしまえば、何も残らない。」

そう思うようになってからは、いつ野球ができるようになっても最高のパフォーマンスを発揮できるよう自主練習に取り組みました。その中で活用したのが、学部での学びでした。大学生になって怪我をした時から行っている取り組みですが、スポーツ科学部では１年次からスポーツに関する様々な学びを段階的にインプットすることができます。それらを活用して自分自身に特化したオリジナルのトレーニングメニューやコンディショニングチェックシートを作成したことで日々の目標設定を行いやすくなり、身体状態もより把握できるようになったことで高いモチベーションを維持することができました。

その甲斐もあってか、部活が再開した7月からは好調を維持し、9月に地区大会の代替大会が開催されると決まってからはさらに調子を上げていくことが出来ました。そして大会では主に5番打者として全試合スタメンフル出場を果たし、チームを大会優勝に導くことへの貢献が出来ました。もちろん優勝できたことや結果を残せたことも嬉しかったですが、大学のサークルによっては満足な活動すらできずに引退する同級生もいたので、その人たちの想いも背負わせてもらいながら部活を全うできたことが何よりも嬉しく、そして誇らしく思います。

準硬式野球部は基本的に3年生で引退となります。私たちの代では達成したくてもできなかった「１部リーグ昇格」という目標に向かって、あとは後輩たちに託したいと思います。

今後の目標

今までスポーツ科学部で学んできたことと、準硬式野球部に限らず、12年間共に生活の一部であり続けた野球から得たことを活かし、子どもたちにスポーツをすることの楽しさや、地域の子どもたちが健康に過ごせるような指導ができる保健体育の教員を目指しています。まだまだ教員になるための資質や知識は乏しいですが、常に現実と向き合い、自分自身ができることを１つずつこなし、着実に教員になるための土台を作っていきたいと考えています。

高校生のみなさんへ

コロナ禍で学校生活や部活動が制限され、最後の大会や発表の場が奪われて絶望した生徒が多くいると思います。それでも失意の底から這いあがり、また自分の将来に向かって歩みを始めることこそが、これから必要になってくるのではないでしょうか。

スポーツ科学部では「スポーツを360°科学する」というテーマで、あらゆる人のスポーツに対する関心に応えられる学びが用意されています。もし、スポーツに少しでも興味関心があれば、共に学び、新しい時代のスポーツを創出してみませんか？

今春、志高く入学される皆様と一緒に学べることを楽しみにしています。

初めての大学での学び

教育･心理学部 子ども発達学科 保育･幼児教育専修 １年
山中 さとみ さん（赤穂高校出身）

コロナ禍での大学生活の始まり

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な活動が制限されました。入学式（全体式典）の中止、オリエンテーションの時間短縮、入構制限によるオンライン授業など、自分が想像していた大学生活とは全く異なるものとなりました。一日中アパートでパソコンに向き合い、ひとりで授業に取り組む日々が続きました。

同じ専修やゼミで仲良くなった友人に会えないことや前例のないオンライン授業に、孤独感や不安感を抱きながらの大学生活の始まりでした。しかし、そんな生活を充実したものにするために一日のスケジュールを立てたり、友人とLINEや電話で課題や授業について相談をしながら取り組んだりと、自分なりに工夫して過ごしました。

また、今までやってこなかった家事や家計管理などを毎日自分で行うことで、実家のありがたみを感じるとともに、自立のスキルも身についてきました。

対話的な学びで新たな発見も

講義では、自分の興味のある分野について学びを深めることの良さを感じることができた１年でした。後期のゼミ科目では「自園でコロナウイルスの感染者が出たとき」という書籍を使用し、一人ひとりスピーチを行いました。保育・教育に関することだけでなく、現在の流行や社会問題について自分なりに考え、意見交換をすることで、多角的に物事を捉え、考えることができるようになってきたと思います。福祉、保育・教育、政治など、あらゆる方向から他者の意見を取り入れて考えることは簡単なことではありませんでしたが、自分一人では思いつかないような考え方や新たな観点からの発見など、複数人だからこその学びができ、仲間の大切さも感じることができました。オンライン授業にはなりましたが、こういった対話的な学びも続けられていることは良かったと感じています。

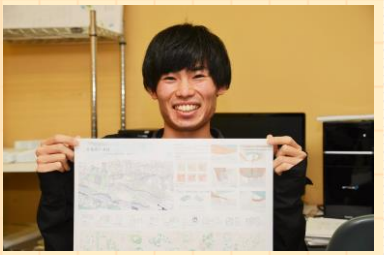
今後の目標

２年次後期には初めての保育実習があります。その実習に向け、今後は専門科目や実技科目だけではなく、日本福祉大学だからこそできる福祉科目にも力を入れて頑張ります。

１年次に保育・教育系の専門用語や日本国憲法について学んだので、今後に生かせるようにしっかりと復習を行いたいと思っています。

また、今年度取り組むことのできなかったボランティア活動やサークル活動についても前向きに考え、積極的に頑張っていこうと思っています。

2021年度から　健康科学部
福祉工学科が変わります！



『建築新人賞2020』＆『アフターコロナの世界 建築コンペ』で入賞！

健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修2年の竹内勇真さん(諏訪清陵高校出身)が「建築新人戦2020」において8選に選出され、また同年開催された建築コンペ「アフターコロナの世界」においても入賞しました。

建築新人戦2020　8選に選出 ※1

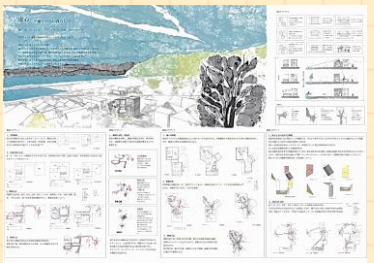
竹内さんの応募作品「虚心」は、2年生前期(2020年度)の設計課題で制作した住宅設計図です。住宅の「目に見えないが存在している精神的な家族のつながり」、これを「虚心」としてとらえてコンセプトの軸とし、関連性の解釈を動線計画へと反映しています。2020年9月11日開催の二次審査およびプレゼンテーションを経て、全国から962作品の応募がある中で、見事8選に選ばれました。

アフターコロナの世界　浅子佳英賞(審査員賞)受賞 ※2

応募作品「非連続の連続～都市の瞬間・間断・連続性～」は人の過密を避けるため「都市という集合体の中で新たな距離感を生むこと」を軸に、人の運動や使用空間、衣食住のスペースが一定規模を超えるとリスタートするという提案を行いました。

竹内さんは「このコンペティションはコロナ禍で不自由な生活を強いられる中、未来を考える時間や歴史的な変革に向きあう機会として開催されました。今回、危機と共存するアフターコロナの世界において、身体動作や生活空間、衣食住の必要性などを再考し、都市や建築のあり方を提案できたのではと思います」と話しています。

健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修　2年
竹内 勇真 さん
(諏訪清陵高校出身)



2年生前期の設計課題で制作した住宅設計図「虚心」。

※1 建築新人戦･･･所属する教育機関(大学･短期大学･専門学校･高等専門学校)で取り組んだ設計課題を対象とした設計コンペで、学生の設計の登竜門として位置づけられています。また1人1作品(グループ参加は不可)という厳しい制約もあり、学生自身の日ごろからの努力とその技量が求められる設計コンペです。

※2 アフターコロナの世界 建築コンペ･･･コロナ後に激変する日常生活について、その変革に向き合うための都市と建築、われわれが生きる空間について提案を求めたもので、全国から173作品の応募がありました。

健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修長　村井准教授より

竹内勇真君が8選(最上位の8作品)を受賞した「建築新人戦」は、学生の登竜門として非常に高い評価を受けている設計コンペです。

このコンペはテーマがあるのではなく、大学などで取り組んだ「授業の設計課題」で応募するので「誰もが応募作品を持っている」ことが特徴です。そのため、自信のある学生が大勢応募してきますから、ハイレベルな戦いになります。その中で8選に残ったので、なおさら高い価値があります。さらに、授業課題のため、毎日の真面目な取り組みが成果として現れますから、受賞は設計の力だけでなく、きちんと授業に取り組んでいる結果でもあります。

建築新人戦の公式パンフレットによると、今回は全国から962作品の応募がありました。審査は最初に100作品が選ばれ、次に16作品に絞られての公開審査、最後に残った8作品によるプレゼンテーションと続きます。これらの審査では、有名な建築家でもある審査員から厳しい質問や指摘を受けますが、そのプレッシャーの中で竹内君はきちんと回答を続け、今回の受賞となりました。

「建築バリアフリー専修」は、建築、環境、福祉を一緒に学べることが特徴で、他の大学ではほとんど見られません。一般的な工学部建築学科のカリキュラムに加え、バリアフリーなど建築と福祉の関わりや、建築と自然環境の関わりも学ぶことができ、これからの社会に求められる様々なスキルを持つ学生が育っています。

これからの建築は「建っている」だけでは不十分で、そこで人はどのように幸せな生活を営むか、人生を終えるまで安全・安心に住むことができるか、自然環境と共に建築が存在できるか、ということへの「答え」が建築に求められます。

建築バリアフリー専修では、このような幅広く社会に求められることを学ぶことができます。

「今」だけでなく「未来」に求められる建築を志す学生のみなさん、ぜひ一緒に学んでいきましょう。

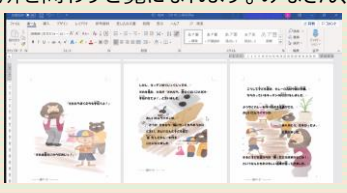
社会福祉学部　認知症啓発プロジェクト
絵本『そばにいるよ』完成

社会福祉学部では2年生を対象に正課科目「フィールド実践演習」を開講しています。

本科目は「あんしん」、「にぎわい」、「つたえる」の3つの要素をコンセプトとした課題解決型の授業となっており、医療専修では5つのプロジェクトを展開。中でも「認知症啓発プロジェクト（指導教員：斉藤雅茂社会福祉学部准教授）」では認知症の啓発活動に取り組み、班に分かれて様々なツールによる啓発を検討しています。

今回、ツールの1つとして5名の学生が子供向けの絵本「そばにいるよ」を作成しました。例年とは異なり、対面形式とオンライン形式の授業が混在する中でも学生は話し合いを進め絵本を完成させました。

この絵本は、大学HPで閲覧が可能です。タブレットやパソコンから開くことで場所を問わずご覧になれます。みなさん、ぜひご覧ください！



後期はオンラインで打ち合わせをしながら、絵本の完成を目指しました。

↑絵本はこちらから

このプロジェクトには長野県出身の学生2名(仲村さん、佐藤さん※以下敬称略)が参加しています。お二人に絵本作成に至った経緯やそれぞれの思い、今後の目標を教えてもらいました。

Q1．絵本を作ろうと思ったきっかけは？

現代の日本で社会問題になりつつある「認知症」を子ども達にも伝えるために、絵を通して学べる「絵本」が適切だと考えたからです。幼い頃に正しい知識を身につけることによって、将来、認知症の人に出会った時に偏見を持つことなく接していけるようになってほしいと願い、子ども達に絵本を届けたいと思いました。

こだわったポイントとしては、あえて「認知症」という言葉を使わないことで身近な物として共感しやすくなるようにしました。また、読み手が親しみを持って物語に入りやすくするために優しいタッチの動物を採用しました。

この絵本を通して、たくさんの人に認知症について知って欲しいと思います。

社会福祉学部　医療専修2年
左:仲村 和夏 さん
(豊科高校出身)
右:佐藤 亜美佳 さん
(岩村田高校出身)

コロナ禍の中で、2つの大きな賞を受賞し、今もなお挑戦し続ける竹内さんにインタビューを行いました。

Q 1.なぜ、建築バリアフリー専修を選んだのですか。

普通科の高校に在籍し、理系の道へ進む事は決めていました。
現在、日本は超高齢社会ということもあり、今後、福祉を含んだ建築が必要になると考え、建築バリアフリー専修を選びました。

Q 2. 熱中してやっていたことは？絵を描くことやものづくりは昔から得意でしたか？

小学3年生から高校3年生まではサッカー部に所属していました。もともと絵を描くこと、ものを作ることが好きで、美術の成績は良い方でした。
高校時代の創作活動は特にありませんでしたが、進学を考えた際に原風景として「ものづくり」が好きだったことを思い出し、現在に至ります。

Q 3. 今後の目標を教えてください

建築を学び、将来のことを考えた際に、大学4年間で学べる範囲・知識にも限りがあると感じ、大学院進学も視野に入れて学んでいきたいと考えています。また、卒業後、個人アトリエへの就職で実務経験を身につけることも選択肢の一つとして考えています。
建築を学ぶことが楽しく、この学びを職として暮らしていけたらと思います。

学生奮戦記

一年前、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった頃、就職活動中の学生たちは誰しも不安でいっぱいでした。４年間の学びで成長した自分を信じ、希望の就職先の内定を勝ち取った学生をご紹介します！

ふだんのくらしのしあわせを創出できる社会人を目指して

健康科学部福祉工学科建築バリアフリー専修　4年
三浦　捷　さん（上伊那農業高校出身）
内定先：大和ハウス工業株式会社

私は、大学生活を通して４年間で様々な力を学ぶことができました。
まず、1つ目は地域活動です。「亀崎建築ものづくり塾」の一員として、日本福祉大学半田キャンパスのある亀崎地区で「学生シェアハウス」に住みながら地域活動に力を注ぎました。
コロナ禍の中、地域でのワークショップが規制される中で、YouTubeを通して「亀崎の魅力」と「ものづくり」の楽しさを1年間発信してきました。実際に地域に住み、地域の人と密接に関わることで大学の座学だけでは身につかない力や発見を多くさせていただきました。地域行事や地域ボランティア活動に参加することで、小学生から高齢者まで多くの人と関わる機会があり、長野県の地域とはまた違った人との交流を感じた大学生活となりました。
2つ目は海外でのワークショップです。3年次に「フィリピン」と「タイ」でワークショップを行い、海外建築視察で「パリ」に行きました。
フィリピンでは、スラム街（インフォーマルセトルメント）での研究を行う先輩と一緒に現地の人と言葉が通じない中でのベンチの作製を行いました。ワークショップを通して感じたことは、「言葉の壁より笑顔で関わることが大切である」ということです。言葉がわからない中でも、聞き取れる単語から雰囲気で相手の気持ちを理解し、ジェスチャーやわかる単語を並べることでお互いに理解し合うことができました。

その他にも「企業と連携した商品開発」や「学生委員会の委員長」など大学生活において、初めての挑戦や経験を数多くすることができました。しかし、初めての活動を行う上で失敗や不安はつきもので、活動中に失敗して怒られることも多くありました。「若いうちにいっぱい失敗しておけ、社会人になる前にいっぱい怒られとけ」と学生を叱咤激励し、活動を支援してくれる多くの方がいたからこそ、ここまで活動し続けることができたと感じています。

人との関わりを大切に

どんな活動においても、共通していることがあります。それは、「人との関わりを大切にする」ということです。これが、大学生活を通して、私が学んだことです。日本福祉大学の掲げる「ふくし」「『ふ』だんの、『く』らしの、『し』あわせ」というのは、一人では作り上げることはできません。誰かの支えがきっと必要です。
これから社会人となり、今まで以上に人と関わる機会が多くなります。住宅や施設は「建てる人の一生の宝（しあわせ）」につながります。今まで大学生活で助けられた地域やこれから新しく活動していく地域、どんな場所であっても「人との関わり」を大切にして、これからは自分が多くの人の「ふだんのくらしのしあわせ」を作っていきたいです。

Q2. 活動を通して、成長したと思うことは？

このプロジェクトを通して、「伝える力」を身につけることができたと感じています。伝えたい事があるとき、相手のことを考え、どのようにしたらより伝わるのかを工夫していく必要があることに気がつくことができました。
また、皆で一つの物を作っていく上で欠かせない合意形成を図る技術を得ることもできたと思います。オンライン上で意見交換・情報共有をして完成までの方向を決めていくことはとても難儀なことでした。意見が対立することもありましたが、皆が考えを合わせようと動いた結果、今回の絵本を完成させることができました。（仲村）

私自身このプロジェクトを通して成長できた点は、認知症に関しての正しい知識が身についたことです。正直、私自身認知症に対してマイナスな偏見を持っていた一人です。しかし、この学びを通して周りの人の支援の仕方で「認知症になってもずっとその人らしい生活を送っていける」ことを知ることができました。
また、今年度はコロナが大流行しオンライン上での活動でしたが、みんなが慣れない中でも意見を出し合い、話し合いができたことは、それぞれの主体性を育むとても貴重な経験だったと思います。（佐藤）

Q3. 今後の目標を教えてください

今後の目標は、より多くの知識を身につけられるように勉強に励んでいくことです。今回のプロジェクトを進めるにあたって認知症について調べたり、認知症サポーターになるための講習を受けたりしました。それらの取り組みによって、たくさんの正しい情報を知り、知識の幅を広げることができ、また、周りに伝えていく際に、よりわかりやすく・伝えやすくなったと感じています。今後は現在の福祉や社会の問題などに対しての自身の意見や考えをもっと発信していき、様々な人と意見交換をしていきたいと考えています。そのためにも、たくさんのことを勉強して見聞を深め、フォーラムなどに参加していきたいと思います。（仲村）

この活動では、１からストーリーを考え、絵を担当しました。その中で私は自分の頭の中にあるものを形にしていくクリエイティブなことが好きだと改めて実感しました。今後、クリエイティブな活動の中にある「デザイン」と「福祉」をつなげる活動をしていきたいと考えています。
『メラビアンの法則』を知っていますか？例えば、誰かに何かを伝えようとするとき、相手には言語情報が７％・聴覚情報が38％・視覚情報が55％の情報が伝わっていきます。ここから分かるように、視覚情報はとても重要なものになりますが、これを補うのがデザイン力だと思っています。
今後大学で福祉の学びを深めつつ、デザインの勉強も並行して行い、たくさんの人に福祉の魅力を発信できる存在になりたいです。（佐藤）

NIPPUKU NEWS

NEWS. 1

「Welcomeにっぷく！オンラインチャンネル」を開催しました！

これから始まる大学生活への不安を少しでも払拭してもらおうと、新入生の皆さんを対象にしたオンライン企画「Welcomeにっぷく！オンラインチャンネル」を開催しました。

例年は3月下旬に対面で開催していたものでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度は開催できず、今年度初めてオンラインでの開催となりました。

学部別、出身地域別、居住地域別、フリー企画のチャンネルを設け、大学生活、アルバイト、サークル、一人暮らしのHow toまで新入生からの幅広い疑問・質問に先輩学生たちが答えました。

参加した皆さんからは「質問に丁寧に答えてもらった」「堅苦しい雰囲気ではなく参加しやすかった」「不安が解消された」「新生活が楽しみになった」などの感想が聞かれました。

松本オフィスも長野県出身の方はもちろんのこと、全国各地から入学される皆さんの大学生活を全力でサポートしていきます。これから4年間、どうぞよろしくお願いします！在学生の皆さんも新入生のサポート、引き続きよろしくお願いします。

※写真は職員と在学生の打ち合わせ風景です。

NEWS. 2

第18回 高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト入賞作品発表！ ～テーマ：私と福祉～

2003年に始まった「高校生福祉文化賞　エッセイコンテスト　36℃の言葉」。第18回を迎えた今年度も長野県をはじめ、国内・海外からたくさんの応募が寄せられました。

寄せられた応募総数8，193点の作品の中から、厳正な審査の結果、18作品の入賞が決まり、また、学校賞も14校が選ばれました。

今回の応募作品について審査員の皆さんからは「自分の体験にもとづいた作品が多く、等身大の姿が見られました。今年は、自分たちが今何を考え行動しているのか、当事者の等身大の姿を描いた素直な作品が多く寄せられました。審査会では、審査員の皆さんが熱い議論を交わしながら、受賞作品を選びました。」との感想がありました。

社会の変化や技術の進歩など日々変化する環境の中で、高校生が今、何を思い、何を感じているのかをぜひご覧ください。

2021年度もエッセイコンテストは開催予定です。詳細は4月以降に本学HPにて発表となりますので、興味のある方はぜひチェックをしてください。

受賞作品はこちらからご覧いただけます。

NEWS. 3

「今年度活躍した学生を励ます集い」が開催されました

日本福祉大学ではスポーツや学術文化、地域貢献活動など、課外活動においてすぐれた成果をあげた学生やサークル・団体を表彰しています。この制度は、日本福祉大学後援会が行う学生活動支援助成に基づくものであり、今年度の授与式が12月12日(土)に美浜キャンパス文化ホールで開催されました。

学生表彰授与式では、今年度、スポーツ活動や学術文化活動、地域貢献活動ですぐれた成果をあげた25個人、5団体が表彰されました。課外活動備品贈呈式ではサークル協議会に所属する約20のサークルが活動に必要な備品の贈呈を受けました。

今回受賞された学生の中から長野県出身学生をご紹介します。

【学生部長表彰(個人)】

- ・陸上競技部　　未元 昂成さん（スポーツ科学部2年）
- ・Ｉ部バドミントン部　齋藤 樹さん　（教育・心理学部 1年）

NEWS. 4

犀川スキーバス事故三十七回忌法要が営まれました

2021年1月28日(木)犀川スキーバス事故から36年を迎え、正源寺(長野市七二会)と慰霊碑前(長野市信更町)にて三十七回忌法要が営まれました。

今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、現地での参列者を制限してオンラインでの配信を行い、ご遺族、同窓生、本学関係者等が全国各地からインターネットを通じて参列しました。

「この地に立ちますと、亡くなられた方々とご遺族の、無念な思いと深い悲しみが混然一体となった“呻吟の声”が強く胸に迫ってきます。何年過ぎようと、記録や関係者からの聴き取りを通して、事故の事実をありのままに捉え、私たちの努力がどうあるべきなのかをしっかり見据える取り組みを継続していきたいと考えています。」と丸山悟理事長より、追悼の言葉が述べられました。

長野県地域同窓会からも東條会長に参列(オンライン)していただきました。三十七回忌の節目、オンライン中継によって全国各地で同じ時間を共有し、思いを寄せる貴重な1日となりました。

大学案内、入試ガイド、過去問題集をお届けします！

日本福祉大学の入試に関する資料をご請求の方は右記の大学ホームページまたは、松本オフィスまでご連絡ください。

入試に関することは「受験生サイト」をチェック！

日本福祉大学のことが気になったらまずは本学HPの「受験生サイト」をチェックしてください！大学・学部のことが一目でわかる「WEBオープンキャンパス」をはじめ、入試にまつわる様々な情報が入手できます。

LINE 公式アカウント

ネット出願、出願期間の情報はLINEと受験生サイトを中心に告知していきます。その他、イベント情報、キャンパスライフ情報などもお届けします！

松本オフィスにて個別面談、オンライン面談を承ります！

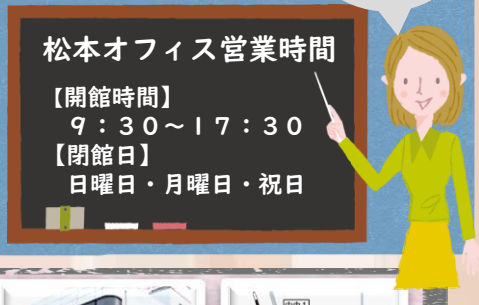
「大学や学部の詳しい説明が聞きたい！」「AO入試の教職員との面談がまだ…」などでお困りではないですか？個別相談やAO面談など松本オフィスで承りますので、お気軽にお問い合わせください！

営業時間が変わります！

2021年4月1日より松本オフィスの営業時間が変更になります。学校帰りやお仕事帰り等で17時以降にお越しの際は、事前に電話またはメール等でご連絡ください。

休館日はこれまでと変わらず、日曜・月曜・祝日となります。何卒よろしくお願い致します。

松本オフィスへのご連絡はお電話または、下記問い合わせフォームをご利用ください。



日本福祉大学　松本オフィス

〒390-0815　長野県松本市深志1-1-24・3F

TEL:0263-31-9011　FAX:0263-32-8018

開館時間:9:30～17:30(日・月・祝は休館)

MAIL:e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp

松本オフィスへご質問・ご相談はこちらのフォームから→